

甲虫コレクションガイド 15

兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されているカミキリムシ標本の概要

松田 潔¹⁾・山内健生^{1,2)}

¹⁾ 〒 669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 兵庫県立人と自然の博物館

²⁾ 現在：〒 080-8555 北海道帯広市稲田町西 2 線 11 番地 帯広畜産大学

Longicorn Beetles Collection in the Museum of Nature and Human Activities, Hyogo

Kiyoshi Matsuda and Takeo Yamauchi

緒言

兵庫県立人と自然の博物館（1992 年開館，以下，人博と記述）は，兵庫県三田市にある日本最大クラスの公立自然史博物館である。1,243 m² の乾燥標本用収蔵庫の半分が昆虫標本の収蔵スペースで，スチール製移動式戸棚（コンパクト）460 本を備え，ドイツ箱約 19,000 箱を収蔵可能である（沢田，2000b; 橋本，2009）。開館以前の準備室時代から大型コレクションの購入・受贈が多く，現時点で 100 万点以上の昆虫標本が収蔵されている（図 1）。ホロタイプ標本も少なくなく，甲虫だけで 100 点を越える（沢田，2014）。収蔵標本の一部はデータベースに登録され，インターネットを通じて所在を調べることが可能である。

人博の収蔵標本数は非常に多いため，本報告では，標本に関する問い合わせが多く，かつ比較的整理の進んでいるカミキリムシの標本に絞って解説を行う（本文中は敬称略）。

近年，カミキリムシは主に幼虫の形態から 4 科または 5 科に分類されてきた（Švácha & Danilevsky, 1987, 1988, 1989; Švácha *et al.*, 1997; 大林，2007; 大

林・佐藤，2007）。人博の標本収蔵庫にはこれら全ての科に所属するカミキリムシの標本が収蔵されているので，本報告の中ではカミキリムシという用語を，日本産ではホソカミキリ科とカミキリムシ科に使用し，外国産ではその他の科（タマムシカミキリ科，ムカシカミキリムシ科，ケラモドカミキリムシ科）も含むカミキリムシ類（科群）に使用した。

カミキリムシ標本を含む主なコレクション

(1) 東正雄コレクション（2012 年度受け入れ）

兵庫県宝塚市の東正雄（あずま まさお，1912～2001）が収集した昆虫全般に渡るコレクション約 30,500 点である。東正雄はアリ類と貝類の分類学が専門であったが，コレクションには戦前の個体を含む多くの甲虫標本が含まれる。特に兵庫県，大阪府，鳥取県で採集された標本が多い。カミキリムシの標本は約 2,200 点で，日本産の種に限定されるが，ヒゲジロホソコバネカミキリ *Necydalis odai* Hayashi, 1951 のパラタイプ標本（タイプ産地と同じ和歌山県護国寺産）2 点も含まれる。

(2) 江田茂コレクション（2000 年度受け入れ完了）

東京都の江田茂（えだ しげる，1930～2008）が収集した約 272,600 点の蝶と甲虫中心のコレクションである（山内，2018）。カミキリムシの分類学的研究に重要な玉貫光一コレクションを含む（別に解説）。カミキリムシは大型ドイツ箱 263 箱，約 22,800 点で，中でも世界のノコギリカミキリ亜科のコレクション約 1,200 点は圧巻である（図 2）。日本産カミキリムシは約 9,400 点からなり，戦前の標本も含まれる。また，北アメリカ産カミキリムシの標本は全て同定済で，タイプで打たれた種名ラベルの下に整理されている。これらの他，江田茂コレクションには，未同定の東南アジア産カミキ



図 1. 人博標本収蔵庫内のスチール製移動式戸棚。



図2. 江田茂コレクション. 南アメリカ産ノコギリカミキリ亜科の標本.

リムシの標本約 4,400 点, アフリカ産などの外国産カミキリムシの標本 2,600 点も存在する.

(3) 春木實コレクション (2013 年度受け入れ)

兵庫県 (川西市) の春木實 (はるき みのる, 生没年不明) が収集した約 10,000 点の美麗昆虫 (世界の蝶と甲虫) のコレクションである. カミキリムシは約 7,900 点で, 日本産と台湾産のカミキリムシが主体であり, ハナカミキリ亜科, カミキリ亜科, フトカミキリ亜科の標本が充実している. 春木は, 標本の収集と並行し, 川西市を中心とした北摂地域での野外調査にも熱心に取り組んだ.

(4) 堀田久コレクション (2012 年度受け入れ)

兵庫県 (洲本市) の堀田久 (ほった ひさし, 生没年不明) が収集した約 5,400 点の淡路島産昆虫, 日本産蝶等のコレクションである. カミキリムシは約 300 点含まれ, 淡路島のカミキリムシ相を知るための貴重な資料となっている. 堀田久は淡路島の昆虫相解明に大きな貢献をした人物であり, カミキリムシについても同好会誌に多数の報告を行った (堀田, 1979 など).

(5) 平山修次郎コレクション (2009 年度, 2017 年度受け入れ)

平山修次郎 (ひらやま しゅうじろう, 1887~1954) が収集した昆虫全般のコレクションで, もともと東京都の井の頭公園に存在した平山博物館 (1955 年頃に閉館) に収蔵されていたものである. カミキリムシ科のタイプ標本や, 戦前の歴史的な標本 (例えば『原色千種昆虫圖譜』(平山, 1933)



図3. 平山修次郎コレクション. 台湾産カミキリムシフタモンホソウスバネカミキリ *Leptoxenus bimaculatus* (Matsushita, 1933).

に掲載された標本) を多く含む. その後, これらの標本は兵庫県千種川グリーンライン昆虫館 (兵庫県昆虫館) で展示されていた. 兵庫県千種川グリーンライン昆虫館 (兵庫県昆虫館) は 2008 年に閉館し, 2009 年 4 月に佐用町昆虫館として新たに開館したが, 同年 8 月の台風 9 号の災害で甚大な被害を受けた. ここに収められていた平山コレクションは, この災害の後に大部分が人博へ移され, 一部は県の別の施設の倉庫で管理されていた. 2017 年 10 月に残っていた標本すべてが人博へ移された.

平山修次郎コレクションのカミキリムシは, ドイツ箱 20 箱, 約 3,000 頭で, 日本と台湾の種が大半を占めるが, マリアナ諸島 (旧南洋諸島), サハリン, 朝鮮半島の標本も少数含まれる (図 3). これらの標本は, ほぼ亜科単位でドイツ箱に納められ, 9 割以上の標本が同氏手書きの種名ラベル (当時の学名) の下に整理されている.

(6) 稲原延夫コレクション (2000 年度受け入れ)

大阪府の稲原延夫 (いなはら のぶお, 1925~1985) が収集したクワガタムシを中心とする甲虫, および蝶のコレクションである. 株式会社日本生命保険相互会社 (大阪市) から, 後述する富田寿夫コレクションと一括して人博へ寄贈された. 稲原延夫コレクションと富田寿夫コレクションを合わせた標本数は約 37,200 点である (横川・山内, 2018). 稲原延夫コレクションのカミキリムシの標本は約 1,800 点で, 世界中の研究者やコレクターとの交換によって入手された. ノコギリカミキリ亜科, カミキリ亜科, フトカミキリ亜科の見栄えのする大型種が充実している (図 4).

(7) 小林桂助コレクション (2000 年度受け入れ)

兵庫県 (神戸市) の小林桂助 (こばやし けいす

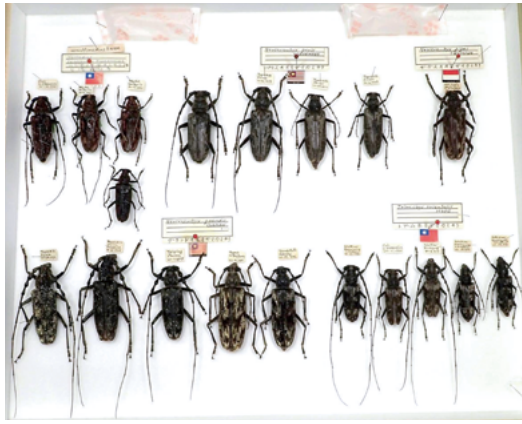


図4. 稲原延夫コレクション. 東南アジア産ヤマカミキリ族の標本.

け, 1908~2000) が収集した大型ドイツ箱 224 箱からなる昆虫全般のコレクションである. カミキリムシは約 3,100 点で, 戦前の標本を含む. 日本産カミキリムシは小林自ら採集した標本も多いが, 交換, 購入等で入手した戦前の中国, 満州, 台湾, ヨーロッパ, 東南アジア産の標本も充実している. これらの中にはグレスitt (J. L. Gressitt, ビショップ博物館), 平山修次郎 (前述), 矢野由雄の採集標本が含まれ, 精力的に標本を集めていたことが分かる. また, 戦後のものとして特筆されるのは, 1962 年に小島圭三 (高知大学)・渡辺弘之 (京都大学) による沖縄島と八重山諸島の調査で得られたカミキリムシ標本 85 点である (図 5). この時の調査に基づいて『琉球諸島のカミキリムシ』(小島ら, 1966) が書かれており, これらの標本も学術的価値の高いものである. なお, 小林桂助は鳥類標本のコレクターとして著名で, 鳥類コレクションも人



図5. 小林桂助コレクション. 小島圭三・渡辺弘之の採集の沖縄県産カミキリムシ標本.

博に収蔵されている (江崎ら, 2006).

(8) ジョージ・ルイスコレクション

イギリスの著名な甲虫研究者ジョージ・ルイス (G. Lewis, 1839~1926) が日本で収集した甲虫コレクションで, ロンドン自然史博物館から人博へ贈られたものである. イギリスで保管されていたため, 100 年以上前に採集されたとは思えないほど保存状態が良好である. カミキリムシでは, ノコギリカミキリ *Prionus insularis* Motschulsky, 1857, シロスジカミキリ *Batocera lineolata* Chevrolat, 1852, クワカミキリ *Apriona japonica* Thomson, 1878, ゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca* (Thomson, 1865), ルリボシカミキリ *Rosalia batesi* Harold, 1877, ホシベニカミキリ *Eupromus ruber* (Dalman, 1817) が 1 点ずつ含まれる (図 6). なお, 人博開館の際, 日本甲虫学会から贈られたジョージ・ルイスの肖像レリーフ (沢田, 2014) も人博に存在する.

(9) 大井敏夫コレクション (1995 年度受け入れ)

兵庫県 (芦屋市) の大井敏夫 (おおい としお, 生没年不明) が収集した約 2,000 点の昆虫全般に渡るコレクションである. すべての個体が戦前に採集されたもので, 大部分は大井自身による京阪神での採集品である. カミキリムシの標本 120 点を含む.

(10) 大倉正文コレクション (1995 年度受け入れ)

兵庫県 (神戸市) の大倉正文 (おおくら まさふみ, 1915~1995) が収集した約 12,000 点の甲虫コレクションである. 大倉正文の専門はオサムシ科 (ゴムムシ類) の分類学であるが, コレクションには芝田太一コレクション由来の東南アジア産甲虫標本を含む. カミキリムシは約 950 点で, 日本産



図6. ジョージ・ルイスコレクション. 日本産カミキリムシ標本 6 点.



図7. 小田覚造コレクション. 日本産ハナカミキリ亜科の標本.

と台湾産, マレー半島産からなり, 外国産のカミキリムシは芝田太一から協力を得たものである.

(11) 小田覚造コレクション (2006 年度受け入れ)

大阪府 (大阪市) の小田覚造 (おだ かくぞう, ? ~2005) が収集した日本産カミキリムシを中心とした甲虫コレクションで, 約 9,200 点からなる. カミキリムシは約 8,100 点で, 和歌山県高野山や奈良県春日山の標本が多いが, 岐阜県日当, 長野県木曾駒ヶ岳, 徳本峠, 上高地の標本も含まれる (図 7).

小田覚造はカミキリムシの採集者・収集家として著名で, 春にカエデ類の花を掬って採集する, いわゆる「カエデたたき」採集法を編み出したことでも知られる. カミキリムシの研究者として著名な林匡夫との親交も深く, コレクション中には林匡夫の同定ラベルの付いた標本が散見される. オダヒゲナガコバネ *Molorchus gracilis* Hyashi, 1949 やヒゲシロホソコバネカミキリ *Necydalis odai* Hayashi, 1951 は, 小田覚造に献名された種である.

(12) 小田中健コレクション (2018 年度受け入れ)

兵庫県 (宝塚市) 在住の小田中健 (おだなか けん) が寄贈したゴミムシとカミキリムシのコレクションである. カミキリムシはドイツ箱 35 箱, 亜種も含めて 850 種, 約 8,000 点で, 日本産が中心である. 兵庫県下で採集された標本が多いが, 南西諸島で小田中自らが採集したカミキリムシの標本も充実している. 全個体に同定ラベルが付され, 現行の分類体系の順にきちんと整理された状態で人博に寄贈された. 小田中健は宝塚市教育委員会から出版された『宝塚の昆虫 IV (甲虫目)』のカミキリムシ科の解説も行った (小田中, 1993).

(13) 阪口浩平コレクション (1984 年度受け入れ)

兵庫県 (西宮市) の阪口浩平 (さかぐち こうへい, 1921~1983) が収集した約 50,000 点の昆虫全般に渡るコレクションである. 本コレクションは兵庫県立人博設立の礎となった (中西, 1998). カミキリムシは約 700 点で, アフリカ産ホウセキカミキリ *Sternotomis* や東南アジア産フトカミキリ *Rosenbergia* などの世界の大型美麗種が揃っている. その多くは, 『図説 世界の昆虫』 (阪口, 1979~1983) に図示され, 詳細な解説が加えられている.

(14) 高橋徹コレクション (2003 年度受け入れ)

京都府在住の高橋徹 (たかはし しょう) が収集した約 22,000 点からなる甲虫コレクションである. カミキリムシはドイツ箱 16 箱, 約 3,400 点で, 北アメリカ産ハナカミキリ数点とカンボジア産大型フトカミキリ *Aristobia approximatus* (Thomson, 1865) 1 点を除く全てが日本産で, 特に京都府宇治市内と奈良県春日山, 大台ヶ原で得られた標本が多い.

標本には種ごとに和名と学名を並記した種名ラベルが付され, 当時の分類体系に従って整理されている.

(15) 高橋寿郎コレクション (1992 年度受け入れ)

兵庫県 (神戸市) の高橋寿郎 (たかはし としろう, 1922~2000) が収集した約 64,000 点からなる兵庫県産甲虫とカメムシ目を中心としたコレクションである. カミキリムシは約 4,000 点で, ほぼ全て高橋自らが採集した標本である. コレクションには, 現在では珍しいヨツボシカミキリ *Stenygrinum quadrinotatum* Bates, 1873 の標本も多数含まれている. 高橋寿郎は兵庫県のカミキリ目録 (高橋, 1961, 1964) を編んだ他, 兵庫県内の同好会誌に多くの分布記録を発表した. 高橋寿郎コレクションにはこれらの報告で使用された標本が含まれる. なお, 高橋寿郎コレクションについては沢田 (2000a, 2002) が参考になる.

(16) 玉貫光一コレクション (2000 年度受け入れ)

東京都の玉貫光一 (たまぬき こういち, 1903~1987) が収集した約 260 点のカミキリムシのコレクションで, 江田茂が所有していたため, 上記江田茂コレクションの一部として人博が購入したものである. 玉貫が著書『日本動物分類ハナカミキリ亜科 1, 2』 (玉貫, 1939, 1942) の中で新種記載を行ったハナカミキリや松下真幸 (北海道大学) との共著 (Matsushita & Tamanuki, 1935) で記載したハナカミキリなど約 50 点のタイプ標本を含む. ヤクシマヨツスジハナカミキリ *Leptura yakushimana*

(Tamanuki, 1942), タケウチホソハナカミキリ *Strangalia takeuchii* Matsushita & Tamanuki, 1935 のホロタイプ標本も含まれ、学術的価値の高いコレクションである(図8)。このコレクションは研究に使用されることが多く、本コレクションを使用して Chou & Ohbayashi (2014) や Ohbayashi & Chou (2014) などの論文が出版された。なお、人博の玉貫光一コレクションの概要については沢田 (2005) が参考になる。

(17) 田村保コレクション (2002 年度受け入れ)

大阪府 (大阪市) の田村保 (たむら たもつ, ? ~2002?) が収集した約 13,900 点のカミキリムシコレクションである。田村保の息子である田村周もカミキリムシ研究を行い、親子共著で研究成果を発表した (田村・田村, 1986, 1987, 1988a, 1988b, 1990, 1992a, 1992b など)。人博には田村親子が研究に使用したカミキリムシの電子顕微鏡用サンプルや雄交尾器標本が多数保管されており (図9), 彼らがアマチュア研究者としてカミキリムシを詳細

に研究していたことが窺える。田村保コレクションの中には、日本各地で採集されたコブヤハズカミキリ類の標本約 2,700 点が調査地域ごとに整理され、貴重な研究資料となっている (図10)。その他、ヨーロッパ産カミキリムシ標本 (ヒサゴカミキリ属 *Dorcadion* 約 1,300 点の標本 (図11) を含む) と東南アジア産カミキリムシ標本も充実している。

(18) 富田寿夫コレクション (2000 年度受け入れ)

大阪府 (堺市) の富田寿夫 (とみた としお, 生没年不明) が収集したカミキリムシ中心のコレクションである。前述の稲原延夫コレクションと一括して株式会社日本生命保険相互会社 (大阪市) から人博へ寄贈された。カミキリムシは大型ドイツ箱 110 箱, 約 11,100 点で、日本産と東南アジア産のカミキリムシが充実している。購入標本も一部含まれるが、多くは富田自から採集したものである。タイとマレー半島産のカミキリ亜科、フトカ



図8. 玉貫光一コレクション. ヤクシマヨツスジハナカミキリ *Leptura yakushimana* (Tamanuki, 1942) ホロタイプ標本。



図9. 田村 保コレクション. カミキリムシの雄交尾器と電子顕微鏡用サンプル (上翅)。



図10. 同コレクション. 近畿地方産セダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* (Bates, 1873) の標本。



図11. 同コレクション. ヒサゴカミキリ属 *Dorcadion* の標本。

ミキリ亜科に所属する小型種の標本は、研究資料として貴重なものである。標本には緑色の標本ラベルが付され、日本産の標本はほぼ全種、外国産の標本は分かる範囲で同定され、種名ラベルの下に整理されている。

まとめ

筆者らの調査で人博の標本収蔵庫に約 100,000 頭のカミキリムシの標本が保管されていることが明らかになった。今回紹介した主なコレクション以外に、松本恒司、新家勝、橋本直也、田中敢、中川俊夫、泉雅夫などが当館に寄贈した昆虫コレクションの中にも、カミキリムシの標本が多数含まれていることが確認できた。また、1989~1997 年には、神戸大学農学部の協力を得て、兵庫県内を 10 地域に区分しての採集調査を委託事業として行ってきた(沢田, 2000b, 2002, 2014; 橋本, 2009) ため、この事業による兵庫県産カミキリムシ標本も多数収蔵されている。これらの標本も、時代と共に変わりゆく兵庫県のカミキリ相を知る上で貴重な研究資料になっている。

現在、収蔵庫に保管されているカミキリムシに関しては、タイプ標本はタイプ標本収納用耐火金庫に収納し、一般標本は科と亜科別にスチール製移動戸棚に収納している。緒言でも述べたように、収蔵標本数が非常に多いため、族以下のレベルではまだ十分な整理が進んでいない。今後は、順次、未整理の標本を種単位でユニットボックスへ移し、種名ラベルを付した上で、系統的な配列に従って整理していきたいと考えている。

本文中では触れなかったが、人博の標本収蔵庫には、中根猛彦、石原保、井上寛、野村鎮、大林一夫などの著名な昆虫学者が採集したカミキリムシの標本も多数存在する。今後、収蔵庫の標本の重要性が正しく認識され、人博を訪れる研究者と一般の見学者にも有効に活用されることを期待したい。

謝辞

大阪市の奥田則雄氏と宝塚市の山下晶氏からは稲原延夫氏と富田寿夫氏に関する有益な情報をいただいた。また、日本大学の岩田隆太郎博士からも情報をいただいた。この場をお借りして心より厚く御礼申し上げる。

引用文献

Chou, W.-I. & Ohbayashi, N, 2014. Two new species of Taiwanese Lepturini (Coleoptera: Cerambycidae). Studies on the Taiwanese Lepturinae, VI. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20: 347-352.

- 江崎保男・山崎剛史・森岡弘之(編), 2006. 小林桂助コレクション鳥類標本目録。(兵庫県立人と自然の博物館収蔵資料目録, 第 5 集). 兵庫県立人と自然の博物館, 三田. 255 pp.
- 橋本佳明, 2009. 兵庫県立人と自然の博物館の昆虫コレクション. 昆虫と自然, 44 (11): 31-33.
- 平山修次郎, 1933. 原色千種昆虫圖譜. 三省堂. 東京. 104 pp.
- 堀田 久, 1979. 淡路島のカミキリムシ追加 (VI). Parnassius, 21: 3-5.
- 小島圭三・林 匡夫・国吉清保・渡辺弘之, 1966. 琉球諸島のカミキリムシ. 高知大学学術研究報告自然科学編, 14 (9): 71-104.
- Matsushita, M. & Tamanuki, K, 1935. Über einige Bockkäfer Japans. Insecta Matsumurana, 10 (1-2): 1-5.
- 中西明德, 1998. 阪口コレクション. 昆虫と自然, 33 (7): 35-38.
- 小田中 健, 1993. 宝塚市の昆虫 IV (甲虫目) カミキリムシ科. 宝塚市教育委員会, 宝塚. 224 pp.
- 大林延夫, 2007. 系統と分類. pp.140-144. 大林延夫・新里達也(編), 日本のカミキリムシ. 東海大学出版会.
- Ohbayashi, N. & Chou, W.-I., 2014. Notes on the *Taiwanocarilia atra* (Tamanuki, 1943) (Coleoptera: Cerambycidae). Studies on the Taiwanese Lepturinae, V. Japanese Journal of Systematic Entomology, 20: 247-249.
- 大林延夫・佐藤正孝, 2007. 研究史 pp.137-139. 大林延夫・新里達也(編), 日本のカミキリムシ. 東海大学出版会. 神奈川.
- 阪口浩平, 1979-1983. 図説 世界の昆虫 I-VI. 保育社. 大阪.
- 沢田佳久, 2000a. 高橋コレクションの収蔵. きべりはむし, 28 (1): 89-90.
- 沢田佳久, 2000b. 兵庫県立人と自然の博物館. pp. 719-725. 馬場金太郎・平嶋義宏編, 新版 昆虫採集学. 九州大学出版会, 福岡.
- 沢田佳久, 2002. 昆虫コレクション(13)-人と自然の博物館-. 昆虫と自然, 37 (5): 26-28.
- 沢田佳久, 2005. 玉貫標本. 人と自然の博物館ニュース「ハーモニ」, 48: 5.
- 沢田佳久, 2014. 昆虫標本資料. pp.23-24. 兵庫県立人と自然の博物館編, ひとく 20 年のあゆみ. 兵庫県立人と自然の博物館, 三田.
- Švácha, P. & Danilevsky, M. L., 1987. Cerambycid larvae of Europe and Soviet Union (Coleoptera, Cerambycidae), Part. I. Acta Universitatis Carolinae - Biologica, 30 (1986): 1-176.
- Švácha, P. & Danilevsky, M. L., 1988. Cerambycid larvae of Europe and Soviet Union (Coleoptera, Cerambycidae), Part. II. Acta Universitatis Carolinae - Biologica, 31 (1987): 121-284.
- Švácha, P. & Danilevsky, M. L., 1989. Cerambycid larvae of Europe and Soviet Union (Coleoptera, Cerambycidae), Part. III. Acta Universitatis Carolinae - Biologica, 32 (1988): 1-205.
- Švácha, P., Wang, J.-J. & Chen, S.-C., 1997. Larval morphology and biology of *Philus antennatus* and *Heterophirus punctulatus*, and systematic position of the Philinae (Coleoptera: Cerambycidae and Vesperidae). Annales de la Société Entomologique de France (Nouvelle série), 33: 323-369.
- 高橋寿郎, 1961. 兵庫県のカミキリムシ類 (第 1 報). 兵庫生物, 4 (2): 88-96.
- 高橋寿郎, 1964. 兵庫県のカミキリムシ類 (第 2 報). 兵庫生物, 4 (5): 248-253.
- 玉貫光一, 1939. 日本動物分類第 10 巻第 8 編第 14 号. 昆虫綱鞘翅目天牛科 1. 細天牛亜科. 花天牛亜科. 三省堂, 東京. 126 pp.
- 玉貫光一, 1942. 日本動物分類第 10 巻第 8 編第 15 号. 昆虫綱鞘翅目天牛科 2. 花天牛亜科. 三省堂, 東京. 259 pp.
- Tamura, S. & Tamura, T., 1986. A study on the electron microscopic comparison of the elytra of Cerambycidae (Coleoptera), part I. The Entomological Review of Japan, 41: 139-145.
- Tamura, S. & Tamura, T., 1987. A study on the electron microscopic comparison of the elytra of Cerambycidae (Coleoptera), part

II. The Entomological Review of Japan, 42: 143–152.
 Tamura, S. & Tamura, T., 1988a. A study on the electron microscopic comparison of the elytra of Cerambycidae (Coleoptera), part III. The Entomological Review of Japan, 43: 171–178.
 田村 周・田村 保, 1988b. 淡路島未記録のカミキリ 2 種. 月刊むし, (214): 10.
 田村 保・田村 周, 1990. 山口県滑国育林のカミキリ 4 種の記録. 月刊むし, (238): 31.
 田村 周・田村 保, 1992a. ヒメコブヤハズカミキリの生態. 月刊むし, (255): 12.
 Tamura, S. & Tamura, T., 1992b. A new species of *Leiopus* Serville

from Japan. The Entomological Review of Japan, 46: 195–197.
 山内健生, 2018. コレクション展 美しき蝶たちとの出会い—江田コレクション展 2018. ひとはく通信ハーモニー, 101: 2–3.
 横川忠司・山内健生, 2018. 兵庫県人と自然の博物館に収蔵されている稲原延夫コレクションのクワガタムシ科標本. さやばねニューシリーズ, (30): 22–26.

(2019年3月9日受領, 2019年5月11日受理)

【短報】街路樹のプラタナスで観察されたエノキコメツキダマシ

エノキコメツキダマシ *Dyscharachthis amplipollis* (Fleutiaux, 1922) は、北海道、本州、四国、九州、奄美大島、台湾、シンガポールに広く分布することが知られているコメツキダマシである(鈴木, 2016)。本種は、灯火に誘引された個体や、エノキやケヤキなどの広葉樹の樹皮下に隠れた個体が発見される例が多いが、日中に活動している姿が観察・報告された例は少ない。筆者のひとり、田尾は、神奈川県横浜市内において、日中に街路樹のプラタナスを歩き回っている本種を観察しているの、ここに報告しておきたい。

観察・採集場所：神奈川県横浜市鶴見区栄町通付近。

観察樹：道路脇に植栽された街路樹のプラタナス(モミジバズカケノキ)。

観察日時：12 exs., 17. VI. 2010 (午前10時～午後1時頃)、田尾美野留観察・採集(鈴木保管)。

天候：晴れ。

鶴見区栄町通は、横浜市の北東部に位置する市街地で、道路沿いには街路樹としてプラタナスが多く植えられている。本種が観察されたプラタナスは、一抱えほどある太さがあり、幹の一部はゴマダラカミキリ *Anoplophora malasiaca* (Thomson,

1865) に食害され、所々に脱出口や排出されたフラスが確認された。幹は樹皮と形成層の一部が剥がれ落ちて木質部が露出して乾燥し、ゴマダラカミキリの脱出口近くでは、枯死した部分が深いところまで達していた(図1)。エノキコメツキダマシは、その露出・乾燥した木質部に止まっている個体や、その上で活発に歩き回っている個体が観察された。この日の横浜市の天気は晴れで、最低気温が22度、最高気温は30.5度と高く、虫の活動には好条件であったようである。コメツキダマシの仲間は、条件が良いと、ホストとなる枯れた樹木上に多くの個体が集まり、歩き回っては交尾をおこない、産卵する行動が観察されることがある。今回は、残念ながらそのような行動は観察できなかったが、ホスト以外の植物にこのように多くの個体が集中するとは考えにくい。本種の幼虫はエノキの枯れた材部を食べることが知られていることから(久松, 1985)、このようにまだ生きていた木であっても、樹皮が剥がれ落ち、木質部が露出した部分は産卵の対象となり、幼虫はその木質部をエサとして利用しているのかもしれない。コメツキダマシで、このような部分をホストとしても利用している例は、ほかにオニコメツキダマシ *Hylochares harmandi* Fleutiaux, 1900 でも観察されている(未発表)。

なお、現状確認をするため、2018年12月に同地を訪ねたが、残念ながら本木は既に伐採・撤去されていた。

引用文献

久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑(III): 42–51 (pls. 8–9). 保育社, 大阪.
 鈴木 互, 2016. 奄美大島で採集された興味深いコメツキダマシ 4 種. さやばねニューシリーズ, (21): 31–35.

(鈴木 互 211-0031 川崎市中原区木月大町 6-1
 法政大学第二高等学校生物科)

(田尾美野留 230-0026 横浜市鶴見区市場富士見町
 10-14)



図1. エノキコメツキダマシが観察されたプラタナス。